

# 県議会へ要望!!

現在、長野県議会では選挙区等調査特別委員会を設け、選挙区や議員定数について次回県議会議員選挙に向け検討されています。

当市議会では、飯山市・下水内郡区と中野市・下高井郡区を合区にして定数2とする案などが議論されることを受け、平成29年3月定例会に



県議会垣内議長へ要望書を手渡す佐藤議長

「長野県議会選挙区の見直し」について、長野県議会選挙区等調査特別委員会において、議員定数1の飯山市・下水内郡を議員定数2の中野市・下高井郡へ合区とし定数2とする案などが議論される見通しとの報道があり、地域では不安の声が出ている。

飯山市・下水内郡は、全国屈指の特別豪雪地帯にあり、その自然環境はことのほか厳しく、地域の政治・経済・福祉・教育・文化等あらゆる分野にわたり甚大な影響を受けている。豪雪地帯での生活・雪との闘いは、そこに住み続けている者にしかわからない苦労を抱えており、特別豪雪対策には多様で広範囲な総合的対策が必要である。その生の声を国・県に伝えていくためには、飯山市・下水内郡区選出議員は欠かすことができないものと考えられる。

よって、長野県議会選挙区の飯山市・下水内郡区の維持、または木島平村、野沢温泉村を加えた岳北郡区を創設し、定数1の確実な確保を強く求めるものである。

## 長野県議会選挙区の見直し 飯山市・下水内郡区議員定数 に関する決議要旨

平成29年3月3日の新聞報道で

「長野県議会選挙区の見直し」について、長野県議会選挙区等調査特別委員会において、議員定数1の飯山市・下水内郡を議員定数2の中野市・下高井郡へ合区とし定数2とする案などが議論される見通しとの報道があり、地域では不安の声が出ている。

飯山市・下水内郡は、全国屈指の特別豪雪地帯にあり、その自然環境はことのほか厳しく、地域の政治・経済・福祉・教育・文化等あらゆる分野にわたり甚大な影響を受けている。豪雪地帯での生活・雪との闘いは、そこに住み続けている者にしかわからない苦労を抱えており、特別豪雪対策には多様で広範囲な総合的対策が必要である。その生の声を国・県に伝えていくためには、飯山市・下水内郡区選出議員は欠かすことができないものと考えられる。

## 議会傍聴に お出かけください!!

平成29年6月定例会は左記の日程で開催予定です。市政を知る良い機会です。議会傍聴にお出かけください。議場は市役所5階です。傍聴席入口からお入りください。

## 平成29年6月定例会 会期日程(予定)

◆招集・議案上程	6月5日(月)
◆一般質問	6月13日(火)～15日(木)
◆予算決算常任委員会	6月16日(金)・19日(月)
◆総務文教常任委員会	6月19日(月)
◆産業民生常任委員会	〃
◆委員長報告・採決	6月22日(木)

## 一般質問



3月1日～3日の3日間にわたり、14名の議員から市政に対する一般質問が行われました。掲載の順番は質問順です。掲載内容につきましては、各議員において編集しております。

### 国民健康保険・ 地域交通とタク シー券について



渡辺美智子議員

問 国保加入世帯数と軽減世帯数は。

答 3258世帯が加入。内7割軽減957世帯、5割軽減529世帯、2割軽減404世帯。

問 50割以上が軽減世帯。そんな状況で払いたくても払えない実態がある。やむなく払えず短期被保険証に、それに「短」という文字記載。この意図は、これを持って医療を受ける方の思いをどう感じるか。(県内20市町村で実施)

答 自主的に納付できるような意識づけ。しかし複雑なものがある。今後の検討課題とする。

問 国保運営協議会で指摘されている基金が4900万円になり、国保税の増税か法定外繰り入れが必要と議論されているがどう考えるか。

答 30年度から県に一本化。それを注視し判断する。

問 9月議会でも質問したが運転免許返納者対策や、地域交通の補正に、弱者対策としてタクシー券の支給を。

答 高齢者の交通確保は大きな課題。先進事例の検討や国の制度を研究していく。

### 三世代同居住宅 建設支援事業



久保田幸治議員

問 制度の拡充で同居子育て世代の支援と、同居率の向上を。

答 同居率は2割。制度の拡充を図り、三世代で移住できるように取り組んでいく。

### ◆自然エネルギー活用事業

問 どのような研究をどの様な体制で取り組むのか。

答 雪に特化した勉強会、先進地等の視察を庁内横断的に技術屋、民間事業者にも参加いただき取り組む。

### ◆スローライフジャパン協会の今後と、観光局の独立

問 スローライフジャパン協会との今後は。

答 飯山市の活性化を實踐できるように力を借りながら交流し、若者活動支援は逸材逸品市を予定している。

問 観光局の独立について。

答 将来をみこし組織の見直しに取り組む。



雪中貯蔵の様子

### 子育て環境の 整備について



渋川芳三議員

問 児童館利用の保護者へのアンケート結果はどうか。

答 多くの方から開館時間延長の希望が寄せられた。延長のための準備は、委託先の社会福祉協議会では必要な準備を行い、市では必要な予算計上をした。

問 グリーンベルトの除雪はどの様に行っているのか。

答 雪の状況等を見ながら、順次道路部分の除雪による幅・排雪を行っている。

問 大久保北の交差点周辺の除雪・排雪をしっかりと行っているか。

答 機械を入れて除雪が出る町中にある保育園・幼稚園の入口付近の除排雪もしっかりと行っている。

問 道路パトロールを強化する中で優先して幅・排雪を行うようにしたい。

問 冬期間の通学路や保育園入口付近の除排雪も子育て環境整備の一つ。さらにきめ細かなところまで配慮した除排雪に心掛けてほしい。

答 これからもきめ細やかな除排雪に心掛けたい。

### 模範となる 行財政改革を



市川久芳議員

◆仮称「飯山市子ども館」新設について

問 当市には、行財政改革に取り組むべき課題はたくさんある。3月議会に上程されている「子ども館」について、飯山小学校の空き教室を利用したら4億5千万もかけないで1億5千万をかけたら同じ機能をもたせると考えるが、その方向で検討されたのか。

答 子ども館新設ではなくて、どこかの小学校等の空き教室を活用してとのことだが、空き教室も特に使えるところがない状況である。学童クラブ、児童館、病後児保育、放課後等児童デイサービス等を入れないので新設を考えた。

◆目標人口について

問 平成31年に2万5000人となっているが平成29年1月31日現在、330人と迫っているが、平成27年に策定している総合戦略が形骸化している。このままなにもしないのは無責任と考えるが。

答 人口ビジョンは目標だが、新年度に入ったら見直しを実施する。

農村農業体験 ツーリズム振興



江沢岸生議員

問 年度末に告示される小学校の新たな学習指導要領の総論、科目ごとの各論に、体験学習が充実して位置付けられることになった。市としての取り組み方針はどうか。

答 全国の学校で体験学習の取り組みがなされるということについては、そういったことを既に実施している飯山市にとつては大きな追い風であると考え。信州いやま観光局や、市内観光協会の皆さんとともに、さらに積極的な誘致に努めたい。



問 政府は、平成32年までに海外からの日本への誘客、農山漁村滞在型旅行をビジネスとして実施できる地域を日本全国で500地域作り出す計画を策定する。市としての取り組み方針はどうか。

答 積極的に、果敢に攻め、取り組んでいきたい。

平成29年度 予算について



小林喜美治議員

問 安倍自公政権は昨年12月、過去最大の29年度予算案を閣議決定した。その特徴は破たんした「アベノミクス」と「消費税頼み」路線行き詰まりのしわ寄せを国民に押し付け、強権的な姿勢を象徴するものとなっている。この国の動向について、地方への影響をどのように見て、どう対応するのか見解を伺う。

答 平成32年度までに、財政の黒字化をめざし、歳出の改革、交付税の見直しなどを行うとしており、社会保障にかかる一般財源の確保に影響が及ぶことが懸念され、国の動向を注視し市民の福祉向上に努めたい。

◆高齢者・弱者世帯の玄関先除雪について  
問 高齢者・弱者世帯の玄関先除雪の支援について、長年の要望であったが今回予算化された。対象世帯など制度の具体的な内容について見解を伺う。

答 玄関先除雪は緊急時の避難路確保で、長野以北の親族要件は入れない予定で考えている。地域の共助の立場で区長会等とも協議して進めていく。

デステイネー ションキャン ペーン (DCC)



西澤一彦議員

問 DCは飯山を全国に売り出す絶好の機会。取組は。

答 JR・大手旅行会社、自治体が提携して市内の観光スポットを回り戸狩温泉、森の家等が宿泊地、また、正受白隠展を合わせて開催し飯山の歴史の深みを世界に発信し、おもてなしの心を大切に、市を挙げて取組む。

問 駅前市有地に食事、お土産店が必要だ。  
答 その方向で進めていきたい。増える有害鳥獣にどう対応していくか。

答 森林整備を進め猟友会の現状に合う体制を考えていく。  
問 環境省が30・10運動を国策で進めるが。  
答 さらに工夫して食品ロス対策を進める。  
問 公明党が進めた産後健診の助成事業制度を活用する計画があるか。  
答 子育て支援に力を入れているが検討する。  
問 菜の花公園地域観光資源創生事業とは。  
答 黄色はハッピーパワースポットとしてウェディングなど新たな可能性を実現させる。

オスプレイ参加の軍事訓練について



竹井政志議員

問 飯山上空を飛行する可能性がある。事前連絡もなく地方自治体は無視するもの。市民の安全、不安解消のために国・県への対応は。



答 県へ飛行ルート等情報提供を要請している。市長会として申し入れる。

◆子ども議会の再開について  
問 過去数回の実施評価として主権者教育の中で大きな意義があるとしている。主権者教育をどうすすめるのか。

答 児童・生徒会長選挙などで投票の意味を学ぶが、基本的には教室で自由が保障される中で主権者教育がされる。

◆次期学習指導要領改定案について  
問 幼児教育要綱案では国旗に加えて国歌にも親しむとしている。「君が代」の歌詞は「天皇の世の中は未来永劫続きますように」というもの。主権在民という国のあり方に反する内容。どう思うか。

答 飯山市には保育園の「歌」があり子どもたちにびったりの「歌」と理解している。

雪のくらし、文化、歴史について



飯田健一議員

問 雪のくらし、文化、歴史はふるさと館にも展示されていますが、もう一步踏み込んで、体系的にそれらを整理して紹介してはどうか。

答 雪と農産物の直売コーナーを併設するのもいいのではないかと考えます。あるいはそのことについて研究をする場を設けていただきたい。

答 そういった施設に観光客を呼ぶにはかなりの魅力がないとだめです。豪雪地域は各所にあります。際立つて差別化することはむずかしいところ。現時点ではやはりふるさと館の展示を充実、工夫をしてまいりたいと思います。

これからの学校教育



松本淳一議員

問 市長よりこの4月以降に「小学校適正規模検討委員会」を設置するとの発言があったが、結論はいつごろ出るのか。

答 地域の理解を得ながら慎重に取り組みたい。期限は決められないが、十分な時間をかけて検討する。

問 小学校英語は、2020年から3・4年生に外国語活動が始まり、5・6年生で教科となるため、英語の指導主事を置き各小学校で指導に当たるとのことだが、市はどう取り組んで行く予定か。  
答 英語の指導助手(AALT)を2名増やし充実させていく。

◆木質バイオマスの利用  
問 森林資源など、再生可能エネルギーの活用施策にどう取り組んでいくか。

答 自然エネルギー活用の一部として研究していく。

◆原子力災害対策  
問 柏崎原発の再稼働はすべきでないと考えるがいかがか。  
答 私は、再稼働に反対の立場にいます。(市長発言)

かまくら祭りとふるさと納税を考える



荻原洋平議員

問 かまくらまつりを物心両面での支援をどう考えるか。  
答 五十基位ほしいが人的面のサポートで、日本で最大のかまくら集積イベントとなるので地元実行委員会と検討していきたい。

問 モービルの活用アイテムで新しいアクティビティが考えられるが。  
答 メニューを考えて取入れていくと冬の大きなビジネス、アクティビティになる可能性が十分あるので相談していきたい。

問 ふるさと寄附金も足元の宝物を発掘し、PRすることが大切だと思うが。  
答 返礼品も使いみちを含め飯山市ファンとなれるよう情報発信を積極的に行う。

問 北信州ハーフマラソン、かまくら村の体験型返礼品が考えられないか。  
答 三市村共同開催なので来訪に繋がる取組として研究していく。当市へ来て戴くことが大切なテーマで、返礼品に関わる人にも経済的な利益が生じる企画が大事と考える。

仮称「子ども館」の運営について



高山恒夫議員

◆相談業務にどう応えるか  
問 新「子ども館」は子育て支援の複合施設として建設される。子育て相談の内容も多岐にわたることが想像できる。相談業務をどう考えるか。

答 未就園児から高校生、障がい児を含む多様なニーズのある子どもたちや保護者の集まる子育て拠点施設となる。親子の交流の場、子育ての相談支援の場、情報提供の場として相談しやすい窓口を設けることが必要と考えている。

◆子ども館を担う人材をどう考えるか  
問 新しい事業に期待する反面、事業を詰め込むだけの箱モノにならないか心配もある。福祉や障がい者支援へ理解のある人材や人的配置が必要ではないか。

答 それぞれの機能の融合によつて乳幼児、障がいのあるお子さん、年代を超えた子どもたち、地域との交流などを通じ多様なニーズに応じた支援が可能と考える。子ども館全体を統括する館長体制は必要と考えている。

インターハイ開催について



山崎一郎議員

問 地元スキー選手の活躍でこの冬地域に喜びと元気をもたらした。飯山にとつてスキーは地域産業と経済に関わりが大きく重要だ。また、子どもたちに夢や希望も与えられるので、インターハイ開催要請を受けたいと思うが。

答 今年飯山高校が男子総合優勝、女子準優勝したし中学生選手も活躍している。平成33年2月の70回大会の開催について立候補した。

問 開催するにはスキー場や競技関係者との連携が重要になるが、どんな状況か。  
答 戸狩観光協会とスキー場関係者や競技関係者から開催要望書が出されているので連携して取り組む。

問 スキー競技は親の経済的負担が大きいため、選手育成が厳しい現実だ。ふるさと寄付金で設けた「子ども未来基金」で支援してはどうか。

答 寄附金の受け入れ項目に、世界に羽ばたく子どもたちを育てるとある。検討してまいりたい。